

くどう さとし
工藤 智司

基幹労連・事務局長

我々の強さは？

私ごとではありますが、工藤家では毎年1年の目標を家族全員が紙に書き、壁に張って毎日ながめられる様にしています。これが結構楽しく、結婚以来毎年続けています。家族が増えると行数が増えなんとなく嬉しくなります。現在は家族が5人と増え（もう打ち止めです）、5人が各々目標を立てています。子供がゼロ歳児の時は親が勝手に「ハイハイできるようにする」「友達をたくさん作る」など希望を書いていたが、今は中学生となり自分で目標を立てています。新年に家族全員で話し合うのですがこれが結構教育にもなり、たとえば積極性が足りないと感じた時には「一年間、大きな声であいさつする」といった目標はどうだ？等、さりげなく言う事ができます。

最近、息子達の目標が「なわとび 回飛ぶ」とか「野球の試合でホームランを本打つ」等プラス思考なものが多いのに対し、自分は「体重 キロへ減量」など、なんとなくマイナス方向のものが多いのが特徴です。私は理系なので目標も具体的なものを入れる

ように常に言っていたのですが、実は昨年「笑顔を心がける」といった抽象的な表現のものを目標の一つにしました。おそらく達成できていないのではないかと思います。あまりにも衝撃的な出来事が多く、職場の仲間も含め私に対する印象は「いつも厳しい顔をしている」といった感じではないかと思います。

さて今年の目標は、昨年達成できていない「体重 キロへ減量」を引き続き掲げると共に、これも引き続き、「楽しく、笑える1年に」といった目標も掲げようと思っています。「楽しい」と思える事が大切だと思います。しかし、楽しむためには目標感を持つことが絶対条件です。たとえば来年には、5年後には、10年後にはこのようになっているはずだ、と感じる事です。目標感の無い「楽しめ」は単なる逃避かもしれません。どんなにつらくとも未来に希望を持ち、目標感を持ち進んでいく事、この中でこそ喜びがあると思います。



今回の震災で私は被災地の方々の驚異的な我慢強さ、粘り強さなど、言葉に言い表せない強さを感じました。実は震災の前においても我が国は国難と言われる状況にあったと思います。1000兆円にもなるのかとする国の借金、超円高の進展、社会保障制度に対する不安、少子高齢化の加速、デフレ経済下における国内経済の低迷などです。一つ一つが極めて重たい上に、さらに復興対策が加わりま

した。私どもも被災地支援に様々な活動を行ってきましたが、その中で日本人の強さをまざまざと強烈に感じ、心に刻まれました。「復興の狼煙」「負けねえぞ」などとお揃いのTシャツを着て、泥だらけになりボランティア活動を行う学生達の姿。自ら被災されているにも関わらず「ご迷惑をおかけします」と看板を出し営業しているホテル。200名のベースキャンプに190食しか届かなかったとき、全員で分け合っている姿等々。

私は、我々には「和をもって貴しとなす」

「乏しきを憂えず、等しからざるを憂う」といった日本人の持つDNAが刻み込まれているのを強く感じました。さらに我々日本にはまだまだ世界に誇る素晴らしく美しい伝統・文化があり、我々の作り出している農産物・工業製品・サービスなどあらゆる製品にはこの想いが刻み込まれていると更に感じました。

我々のもつDNAは必ずや世界の平和と豊かさを作り出すはずであり、その技術を磨きその技術をもって世界に貢献していかなければなりません。まだまだ世界を豊かにできる技術力は健在だ。と、感じた次第であります。

一歩ずつではあるが政治も前に進んでいます。復興に向けた取り組みもさらに加速させなければなりません。遠くとも光が見えれば我が日本人は必ずやそれに向かっていけると思います。「楽しめる」目標を自らも持ちたい。